

究などしがちであるが、それは本筋ではない。言葉は分類によって成立っているもので、人間文化の基礎をなす。業務分類の作成は、科学的管理に対して言葉を与えるような役割を果たすものであって、業務分類の与える言葉の用意によって、事業の科学的管理は、体系をととのえて進展をとげることができる。その煩をさけてはならない。

4 事務の流れ図表

業務分析は業務分類について、分類によって抽出される単位業務ごとに、事務の流れ図表を織出して、仕事の手順を明らかにしておく方法をとっている。事務の流れ図表はアメリカでもプロセス・チャートなどと称して、民間機関および政府機関において広く利用されているようであるが、国鉄式図表は別個に工夫したものである。

業務の運行を表示する図表にはだいたいつぎの2種がある

(1) 個人別業務運行図表 (2) 系列別業務運行図表。そのうち前者は、職員各個人（または組）が日々行っている仕事を、出勤から退出まで時間を追って記入した図表で、いわゆる作業ダイヤであって、これによって各個人の日々の仕事ははっきりする。また後者は仕事（単位業務）のはじまりから終りまでの手順、いわゆる事務の流れを展開した図表であって、各仕事の手順と担当箇所がはっきりする。以上2種の業務運行図表は、1人1人の職員または一流れ一流れの仕事をはっきりさせるのであるが、1つの機関内の多くの職員の個人別業務運行図表を1つの図表に総合したもの、あるいは関連ある多くの仕事の系列別業務運行図表を組み合わせる総合した総合運行図表をつくる。この総合運行図表によって、多くの職員の仕事あるいは、多くの流れの仕事の関係を全体像がはっきりする。

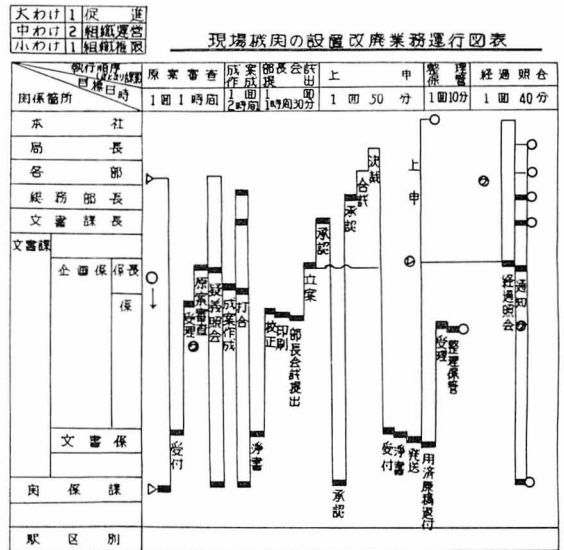
事務の流れ図表は仕事を行う手順を明らかに示して、これを用いて仕事の手順の改善、標準化、仕事の手順の改善された場合改善点の説明のために、職員の養成のために、上級職員の計画のためなどに利用することができる。

事務の流れ図表の一例として現場機関設置改廃の事務の流れ図表を掲げておく。図のように関係箇所を縦軸とし、左から右へ横流れに仕事の手順を展開して記入する。

5 * 業務基準書

業務分析の第3の段階は業務基準書をつくって、業務の構成要素を明らかにすることであるが、これによって業務分析は結末をつけられる。

以上国鉄式業務分析について、過程的職能の観点に立つ職能



分析の方法を述べてきたのであるが、業務分析はべつに組織的職能の観点に立つ職能分析が考えられる。

参考文献 藻利重隆著 経営管理総論。石田武雄著 管理の能率化。(岡村 浩)

ぎょうむぶんるいきかくひょう 業務分類規格表 国鉄の全機構について業務を洗い出し、一すじ一すじの単位業務を明らかにすると、幾万にのぼる単位業務が分析抽出される。これらの単位業務を共通の属性によって整理して、組織的に横上げ配列すると、国鉄の業務分類ができる。こうして業務分類を組み立てるため、規格をさだめたものを、業務分類規格表という。

業務分類規格表は、表のようにきめられていて、これは国鉄の基本業務構造を表わしているものといつてよい。

この規格表の示すとおり、国鉄の業務を大わけにすると総務・促進・人事・経理・需品・施設・車両船舶・輸送・営業の9つの区分に分けられる。一般経済経営の基本業務構造について、資本の流れが投下・費消・回収の過程をすすむという考え方によって、また仕事の過程の考え方によって、調達・生産・販売の過程をとらえて考えられていて、この考え方がいろいろの経済経営に統一的に適用することができる。国鉄の基本業務

業務分類規格表

—大わけ・中わけ—

大わけ		中わけ									
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	総務	庶務	促進	人事	経理	需品	施設	車両船舶	輸送	営業	
1	促進	〃	文書	組織運営	請願陳情	賠償訴訟	監査	公安		資料統計	外務
2	人事	〃	職員	養成	労働	厚生	保健				医療
3	経理	〃	予算	決算	出納	財産	経済計算	収入調定			
4	需品	〃	準備	調達	検査	貯蔵品	決算品	修理	加工	電力	
5	施設	〃	線路	土木施設	建物	電力施設	発電施設	信号施設	通信施設	機械施設	採炭施設
6	車両船舶	〃	蒸気機関車	電気機関車	電車	雑車両	客車	貨車	船舶	自動車	
7	輸送	〃	旅客輸送	荷物輸送	貨物輸送	動力車 船舶運用	運行	運転			通信
8	営業	〃	旅客営業	荷物営業	貨物営業	宣伝	連絡運輸	業務委託			付帯営業